

平成 24 年度第 2 回平塚市博物館協議会会議録

開催日時

平成 24 年 9 月 7 日（金）10 時～11 時 30 分

開催場所

平塚市博物館特別研究室

会議出席者（敬称略）

会 長 牧野 久実

副会長 宮川 重信

委 員 石綿 進一、猪俣 秀、熊澤 武彦、椿田 有希子

事務局 鷹館長、澤村館長代理、縣館長代理

会議の概要

1 開 会

館長挨拶 本日は暑い中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。今年、市役所は市制 80 周年の記念事業をいろいろ展開しております。その一環として、博物館も特別展「レンズから見た ひらつか」を開催しております。夏休み中、親子で、またおじいさん・おばあさんと一緒に子供たちが来て、写真を見ながら昔の話をしているのを見ますと、このような資料としての写真などを、もっときちんと集めておかないといけないと感じます。また、この夏は事業仕分けを受けまして、厳しい指摘をいただきました。仕分けの対象となった博物館の教育普及活動事業について、短時間のなかでは、こちらからなかなか十分に説明しきれない部分もあり、すれ違う部分もありました。これから、博物館事業について広く知っていただくためにどうしていったらよいか、ということを考えさせられました。市長からも、もっと広報活動を関連部署と連携しながら展開していくようにとの話があったところです。なかなか妙案が見つかりませんので、皆さんのお知恵を拝借したいと思います。どうか忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

2 議 題

（1）報告事項

ア 学芸担当からの報告事項

- ・平塚市博物館 夏の事業報告

イ 管理担当からの報告事項

- ・事業仕分けの結果について（報告）
- ・外壁改修（修繕）工事の施工について

（2）今後の事業予定について

- ・秋期特別展

（3）その他

議題（1）のア について事務局 澤村館長代理から協議会説明資料により説明。

【質疑応答】

委 員 古写真の展示で戦時中の写真が少ないということですが、これは平塚の空襲や、海軍の施設があった関係で、写真が撮りづらかったという事情があるのですか。

事務局 そういう写真をお持ちになった方が少なかったということがあります。また公募する際の文言にもよるのかなと思います。写真の例として、風景の変化や皆さんの暮らしぶりが分かるもの、ということで公募をかけたわけですが、その“暮らしぶり”のなかに、戦時中の写真というものをイメージした方があまり多くはなかったのかなと思います。また、空襲については、空襲を受けた家にお住まいの方は、その時代の写真も焼失してしまったでしょうから、そうした写真自体も少ないのかもしれない。

委 員 今後、公募のかけ方次第で、この問題についてはある程度解決できる可能性があるということでしょうか。

事務局 はい。あると思います。

委員 写真ですが、すごく良かった点は、昔と今の場所の対比をしていることです。とらえ方がうまいなと思います。町はどんどん変わっていきますので、この場所でこのように変わったということが、市民としても興味があるところですね。また、8月からいろいろな企画をなさって、学芸員さんのご努力が分かります。地味な仕事ですし、気になる参加人数も多いのは良いことですが、中身がどう充実しているかが大事だと思っています。また、美術館との連携ですが、この地区は文化センターになっていますので、展示においても美術館・図書館・博物館を回遊して見せるという手法が大事だと思っています。そうした企画があると市民も来やすいと思います。私のおります中原でも祭りが始まりましたが、地域の歴史・文化に係る祭りに多くの参加があったことをお知らせしておきたいと思っています。

委員 集まった公募写真は全部使われたのでしょうか。それとも取捨選択されたのでしょうか。事務局 写真は取捨選択させていただいています。アルバムごとお持ちくださった方もいらっしゃるんですけど、その全てを展示できませんでしたので、取捨選択させていただきました。

委員 と言いますのも、公民館の50周年の記念誌を作るということで、写真を公募しようとしたのですが、公募写真を全て使わないと、来てくださった方に申し訳ないということで、結局、公募しませんでしたので。

委員 公募写真ですが、使ったもの・使わないものなど、例えばデータをスキヤニングして保存してからお返ししているのでしょうか。それとも、そのままお返ししているのでしょうか。

事務局 お持ちいただいた写真は、お返しする前に一通りスキャンさせていただきました。

委員 今後、私たち市民が使いたいという時に、例えばデータベースの公開など、アクセスできる環境にしていただけるとありがたいのですが。これは市史編さんの仕事なのかもしれませんが。

事務局 考えさせていただきます。ただ、写真については、あくまでも元々の写真はお返しして、その個人の方が所有されるものであるということを理解したうえで、その後の利用を考えていかなければならないと考えております。

事務局 難しい問題で資料全体に言えることなのですが、所有権や肖像権などに対応した利用しやすい形にしたいと思っています。必ず所有者の方の承諾を得て使用するというような、寄託資料のような仕組みになると思います。また、先ほど、写真で昔と今の比較・対比ができて面白いというお話をいただきましたが、平塚の町は戦災で随分ひどい状態から復興してきた町ですので、どういう復興をしようとして町づくりをしてきたのか、その形が見えるようになるといいなと思いました。今回はそこまではできませんでしたが、当時の市長など、復興してきた市町村の考えや、当時の人達の意識が今どういう形になっているのか、その思いが遂げられなかったことはどういうところか、なぜそれが引き継げなかったのかなど、市民の方達が自分たちの町づくりをどうすれば良いのかを考えるよすがになるものを提案できるような、そういうものにつながっていけばいいなと思っています。“みんなの町づくり”というところでの問題提起として、市民の方に話をさせていただくなかで、そうした広がりが出てくるといいなと思います。

委員 これだけの写真が良く集まったものだなと思いました。公募だけでこれだけ集まることに驚いたのですが、博物館と市民との定期的な活動の結果かなと率直に感じました。写真がかなり綺麗ですが、これは修正しているのですか、生のままですか。

事務局 写真によりますが、コントラストや濃度に手を加えている場合があります。また只今の「公募だけで…」というお話ですが、市の広報情報システム課から、平塚市の広報用に作成した写真を大量に提供させていただいて、そこからかなり写真を出しております。

委員 写真を資料として皆さんに、ということの続きですが、小学校としては社会科の学習の資料として使えるものがあるなど、拝見していて感じます。土屋の地域でも、来年140周年ということで、小学校のHPに昔の写真を少しずつ載せて、地域の方に見ていただくということをしております。写真を所有されている方の承諾が必要とは思いますが、昔の家や暮らしの様子が分かるような写真がありましたら、小学校のHPに載せることができるように、博物館で今後お考えいただければありがたいと思います。

委員 写っている街の看板ひとつにも発見がありましたし、白黒写真の良さなども感じることができました。

議題（1）のイ について事務局管理担当縣館長代理から協議会説明資料により説明。

【質疑応答】

委員 この事業仕分けについて、今後、再評価はあるのでしょうか。この4点について意見が出て、それを決算額のなかでやっていくわけですが、それができているのかどうかという評価がなされるのでしょうか。

事務局 フォローアップについて、具体的に決められた作業はありません。反映されるべきものという意識で作られていますので、それは予算編成作業に任される形になっています。

委員 こういう部分が仕分け対象になります、という連絡はいつごろ来るのですか。直前ですか。
事務局 仕分けの候補にあがっていますという連絡を6月上旬に貰いました。その中からいくつかテーマを選定しますが、という形です。

委員 30分で説得するには、それなりの準備を日頃からしておかないといけないということですね。

事務局 こちらから説明するのは30分中5分と決められておりまして、あとは質問が次々に来ます。その質問に対して答えて、こちらの考え方を説明する時間が無いというのがちょっとしんどいなと思います。博物館の場合は、教育普及活動事業のような大変大きな事業ですので、例えばベルマーレの補助対象事業のような具体的な事業と違って、博物館のあり方や活動を説明しなければならぬ内容でしたので、時間的に厳しかったかなと思います。

委員 しかもこれまで一生懸命やってこられた部分ですし、プラネタリウムのリース料など、どうしようもない部分であるわけですから、困るなあという気がしますね。

事務局 プラネタリウムのリース料については、これがプラネタリウム更新前でしたら、更新そのものについて有効なのかどうかという話になりまして、これは他の町ではことごとくゼロベースの見直しなど、かなりきつい改善意見をいただいているところが多いですので、ホッとしたところもあります。

委員 いくつかのタブロイド紙にも“博物館 要改善”と出ていますが、一般市民はこれを見て博物館は何を改善するのか、という一点で捉えるわけです。事業仕分けの結果を受けてどう改善するのかということで、予算措置も厳しい話になってくると思います。平塚のプラネタリウムは、このへんの地域で初めての画期的な存在であるわけですが、そのリース料が予算の80%を占めている点について、その説明は苦しいし大変だなと思うのですが、プラネタリウムについてはやはり市民や小・中学生も関心を持っていますので、そのへんの説明をしっかりとしてほしいと思います。そして、あとの20%の予算で年間の事業をやっていくわけですから、職員にもかなり比重がかかってくると思います。最近の風潮で要改善の声が多くなっていますが、裏方の仕事は見えませんし、市民は表の仕事しか見えませんから、博物館もいろいろな風潮に負けずに、主張を持って頑張してほしいと思います。

事務局 力強いお言葉をありがとうございます。本当に、見える部分と見えない部分がありますから、我々がどう主張していくかが大事なことだと思います。やはり資料を集めて保存して次の世代に残していくことが博物館の本分であるということが、あまり評価されていないなというところがあります。逆にそれが博物館として大事なことだということを強く主張していかなければいけないと思います。それはやっていきたいと思います。

委員 こういう時は、どうしても数字で評価されてしまうのですが、絶対値を出すのがよいのか、相対値というのでしょうか、比較の数字を出していくことが結構必要なのかなという気がします。それでかなり分かっていただけではないかと感じます。大阪では6月、「なにわの海の時空館」が閉館ということになってしまいました。この館は年間10万人が来ているのですが、費用対効果ということがありまして。館内の菱垣廻船という江戸時代の船が木くずになってしまうということで、今、大もめになっています。仕分けの資料を見ていると、説明が全然できていないのですね。ここは港湾局が大元だったのですが、もうちょっと何とかあったのではないかと、傍から見ていて大変惜しい気がしています。日頃からいろいろと心の準備をしておかなければいけないことなのかなと思います。

委員 私の勤務先の例などでも、どうも文化的な事業に関してはあまり好意的ではない方が仕分けをなさるといった印象があります。ただ、こういう事業仕分けというものが規定路線になってしまっていますので、何とか説明する努力をするしかないのかなと。残念ながらそういう目でしか見てもらえないとしたら、そういう方達を説得する術を自衛として身につけるしかないのかなと思いま

す。

議題（２） について事務局 澤村館長代理から協議会説明資料により説明。

【質疑応答】 特になし

議題（３） その他

・次回日程 ３月２２日（金）１０時から を予定。